

令和3年度第2回草加市みんなでまちづくり会議

議 事 録

1 開催日時

令和3年11月16日（火）午後4時～午後6時

2 開催場所

草加市中央公民館 第1会議室

3 出席者

(1) 参加者 12名

(2) 進行 NPO法人ハンズオン埼玉：川田代表理事、生越副代表理事

(3) 事務局 みんなでまちづくり課：森田課長、巖上課長補佐、池田主査

4 会議の議題

「SDGs（持続可能な開発）の視点から考える 2030年に向けた草加のまちづくり」

※ 全3回の第2回目

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

0人

7 会議の主な内容

○ みんなでまちづくり会議について

みんなでまちづくり会議とは、草加市みんなでまちづくり自治基本条例第26条の規定により、市民同士の議論を通じて市民参画を実現する場として開催しています。みんなでまちづくり会議は、①市民同士の話し合いから、市民同士の交流・連携を促進し、②市からの発信・情報共有により、市民活動の活性化を図り、③市民の皆様の活動の中から、協働の提案をいただくことで市民自治とパートナーシップによるまちづくりを進め、市民参画の実現を目指しています。

みんなでまちづくり会議はいくつかの課題を抱えています。近年の開催では、参加者が少なくなっています。まちづくり登録員を対象に、会議に参加しない理由をアンケートしたところ、「関心のあるテーマがない」、「他の市民同士の議論の場や市との意見交換の場がある」、「一部の参加者しか発言せず、自分の意見が言いにくい」などのご意見をいただいたところです。

また、平成30年度から令和元年度に行われた、草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会からの検証報告では、時代に合った条例の運用が求められ、まちづくり登録員制度を含めたみんなでまちづくり会議の今後の方向性についても、①みんなでまちづくり会議以外で、各分野で市民の議論の場が設けられたことをこれまでの成果とし、まちづくり登録員制度を含めたみんなでまちづくり会議とその他の市民の議論の場を

整理していくこと、②市側からの働きかけにより、ファシリテーション体制を構築し、市主導で新しい政策検討にあたり、関係する市民・団体から分野横断的に意見を収集する場として活用すること、とのご意見をいただいたところです。

こうした現状を踏まえ、みんなでまちづくり会議の本来の目的である市民参画の実現できる場として活性化していくために、NPO法人ハンズオン埼玉の川田さん、生越さんにご協力いただき、専門的なファシリテーターの配置や継続して参加いただける企画を実施し、参加者同士の交流の中から市民活動の促進を図っていきたいと考えていますので、よろしく願います。また、今後はより広く市民の皆様の意見を活かして政策形成につなげられるよう、みんなでまちづくり会議等と他制度の整理を検討していきます。

○ 会議の進行について

今回は参加された方の関心のあるテーマや活動についてお話いただき、参加者同士の交流をしていただきました。今回初めてご参加いただいた方もいるので、参加者同士の交流を深めるために、まずは前回参加された方から簡単にご紹介いただき、その後、今回参加された方から関心のあるテーマや行っている活動についてご紹介いただきます。その後、参加者が関心を持っていることを大きく二つのテーマに分けて、少人数で話し合いを進めていきたいと思っております。

今年度の議題としているSDGsとは、持続可能な開発目標になります。1972年に予測されたデータでは、このままだと2030年頃に経済崩壊や人口減少により生活維持が困難になる結果が示されています。この現状を変えていくために、17の目標が立てられています。世界中でこの目標に向かって活動しようという動きがありますが、私たちはこれを草加のまちづくりに置き換えて、考え、活動していこうということを会議の目標としています。2030年の草加に対する夢は、参加者それぞれですが、それを実現するためには、個人でできること、行政がやるべきこと、事業者にとってほしいことがあると思っております。子育てを例として挙げると、子育てしやすい地域という目標に対して、行政と個人、地域団体、事業者とそれぞれが担う役割や得意とすることがあります。行政は子育てを支える環境や施策づくりができます。個人としては、子育てに役立つ情報の発信ができます。地域団体としては、空き家を活用した憩いの場づくりができます。事業者としては、働き方の工夫で子育ての応援ができます。このように、夢を実現するためには、それぞれが力を合わせて、役割分担をする中で活動することが必要になります。

今回は、参加者自身が、2030年までに実現したいことと、そのために参加者の皆様に協力していただきたいことを出し合っていました。その中には、自分たちの取り組みで協力できると、その場でつながり、声を掛け合っていた場面もありました。本日も、話し合いを進める中で、参加者の活動の発展につながる交流につなげていただきたいと思います。

みんなでまちづくり会議の大きな目的の一つは、市民同士の交流・連携になります。参加者同士が知り合う、つながり合う、更に言えばお互いの活動が連携し、そこから新しい活動が生まれることを期待しています。SDGsで言う17番目の目標で、「パートナーシップで目標を達成しよう」があります。自分たちだけでは困難なことでも、連携から新しい何か生まれるためにこの場があるので、議論を通じながら参加者の交流を深めていただきたいと思います。

参加者の関心事から二つのグループに分けたいと思います。一つ目は、暮らしやすいまちづくり、年代や障がいに関わらず安心して暮らせるまち、コミュニケーション、健康づくり、居場所づくりなどの事柄を一つのグループとしてまとめました。二つ目は、そもそもこれからのことを考える上で、草加をもっと知る、次世代に伝える、地域のお宝のようなものの発掘、発信に関心がある方も多かったと思います。ここからは、「安心して暮らせるまちづくり」チームと「草加を知る・伝える」チームに分かれて、話し合いを進めていただきます。

本日は、SDGsの2030年の課題に掛ける形で、2030年にこんな草加になっていると良いという夢を共有するとともに、その夢に対して、現状の課題を挙げて共有したいと思います。次回以降になりますが、この2030年の夢に向かってどうしたら近づけるかということまで踏み込みたいと思います。夢に近づくためには、市民同士もつながる必要があるし、行政の力も必要になります。そして、市民と行政がつながっていく必要もあります。そんなことを踏まえながら、本日の話し合いを進めていただきます。

○ 会議での共有事項

※①関心のある事項 ②2030年までに実現したいこと ③そのために協力してほしいこと

④2030年の理想の草加 ⑤理想のまちを実現するための課題

■ 「安心して暮らせるまちづくり」グループ

参加者A：①リビングラボ、オープンイノベーション、食べられる景観アートと教育

②草加の各地に食べられる景観アート、動植物であふれる自然化

③必要な人・組織づくり

④緑と果実で地域全体が彩られ、安心感を与える景観と共創のまち” Walkable Town”

⑤隣人に誰が住んでいるのか、何をしているのかわからないで単に住んでいるだけで交流がない
情報共有ができない、分断

参加者B：①不登校、貧困問題

②子供の貧困と不登校をゼロ

③定期相談スペース、相談支援の広報掲載、協力員の募集

④子どもの皆が笑顔の草加、不登校やいじめのないまち、
あたたかいコミュニケーションで助け合えるまち

⑤不登校などの現状を把握して活動につなげたいが、学校のプライバシーの問題がある

参加者C：①高齢化した住民同士のコミュニケーションづくり、多世代交流のまちづくり

②弱い人に手助けできる街（高年者、幼児、障がい者）

③行政窓口のネットワーク化、市民の意識向上（モラルのレベルアップ）

④高年者、子ども、障がい者にやさしいまちー草加

⑤市民活動団体による情報発信と、市による情報集約と一覧化により、
市民間の共有と結び付きを強める

参加者D：①中高年者のウォーキング、正しい歩きから、健康と仲間づくり

- ②要介護者をゼロにする
- ③中高年者の活動場所の提供
- ④子どもから高年者まで住みやすい環境、健康・健脚寿命の伸長、高年者の居場所づくり
多世代が交流できる場づくり
- ⑤高年者の介護問題、高年者が幸せに過ごせるための環境問題（経済・家族）

参加者E：①「草加っ子」の育成

- ②「草加っ子」たちに、将来的に草加に帰ってきてもらいたい
- ③子どもがまちづくりに参加できる方法を考えていきたい
- ④変わらない良さ、住み心地の良い変化（健康・活発）
- ⑤良さを伝えられない、創り上げられない（失敗しても良い）

参加者F：①お互い様のまちづくり、誰もが住みやすいまち

- ②組織の法人化、拠点づくり、自由な活動
- ③事務局できる方募集
- ④子どもも高年者も困ったときに行ける場所がある（第三の場所）
- ⑤持続可能な多世代による支え合いのコミュニティ構築には、行政だけでなく民間事業者の活用が必要

参加者G：①人とのつながりを大事にして最後まで自分の意志で暮らしたい

- ②自分たちで運営できる拠点づくり
- ③場所の提供をして下さる方を募集
- ④向こう三件両隣りが復活、地域で子育てができるつながり

■「草加を知る・伝える」チーム

参加者H：①NP0今様草加宿、草加リノベーションまちづくり、（公財）草加市文化協会、

草加駅東口活性化協議会、商店会

- ②文化会館の新築、川の駅そうか村の実現、旧日光街道の遊歩道化
- ③隈研吾氏による設計（国・県からの支援）、スローライフの実現
- ④歴史と文化を活かした観光と産業のまちづくり

共生社会の実現

旧日光街道の歩行者利便増進道路化

文化会館の建替え

橋名板プラスの実現

川の駅そうか村の実現と観光地化

松尾芭蕉とおくのほそ道の普及

- ⑤昭和中期の乱開発による市街化調整区域が少ないため、4m道路が多く、まちづくりがしにくい
宿場町として江戸幕府の直轄である名残から、市民が新しいまちづくりの意欲が低い

参加者I：①高年者の健康維持・増進活動

- ②平均寿命と健康寿命の差を限りなく少なくする
- ③ウォーキング活動が奏功する人々のネットワークづくり
- ④誰でも歩いて語って健康づくりができるまち”Soka Walk And Talk”
拠点のあるまち（空き家の活用、単身高年者への支援）
- ⑤寝たきりになりそうな人（支援を必要な人）の情報がない
拠点・ネットワークがない
安心して歩ける場所が少ない、健康+αの魅力が欲しい（名所、娯楽など）

参加者J：①自然の循環を取り戻す、障がい者雇用

- ④少人数学級の達成と軽度障がいの子どもの共生
校庭の有効活用、芝生化
障がい者の2重行政を考え直す
- ⑤行政の縦割り、草加都民が多くまちづくりへの関心が薄い
日本人だけの社会にしか興味がない

参加者K：①市民の声を集めてまちづくりに実現する

- ②コミュニケーションとネットワークの中からつくるまちづくり
- ④草加せんべいだけではない草加
歴史と実際の暮らしの共立、ふるさととしての草加
- ⑤今の草加せんべいにすること、草加の歴史が暮らしの中で活かしていない、ふるさと意識

参加者L：①水インフラ関連

- ④住みやすいまち草加
安全安心のまち（治安、インフラ、水害、道路）
行政サービスの質的向上（ワンストップ、助成、公助）
子育て環境の充実（待機ゼロ保育）
福祉のまちづくり（バリアフリー）
交通子育て弱者への支援（子ども食堂、就労支援）
みどりと水辺に触れあえるまち（公園、街角緑化、水辺との緑化のコラボ）
- ⑤長く住み続けるには
魅力ある商業施設がない（学生、新興住民）
都市公園が少ない
福祉アピールが少ない
自治体訴求力が乏しい（PR戦略）
大学、私学の充実